

令和 5 年 6 月 14 日

学校法人三幸学園
横浜ビューティー&ブライダル専門学校
校長 小泉いづみ殿

学校関係者評価委員会
委員長 高橋 健二

学校関係者評価委員会実施報告

令和 4 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 高橋 健二 (株式会社MS LASH HD ディレクター)
- ② 関 久美 (ピアス株式会社 ATS 統括部 部長)
- ③ 田沼 亜沙美 (2008 年度トータルビューティー科卒業生)
- ④ 武田 祥子 (飛鳥未来高等学校 横浜キャンパス キャンパス長)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

令和 5 年 6 月 14 日 (会場 横浜ビューティー&ブライダル専門学校 102 教室)

3 学校関係者委員会報告

別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2022 年度 学校法人 三幸学園 横浜ビューティー＆ブライダル専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 松川 喜代美

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 高橋 健二

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる(皆をハッピーにする)人材を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

【退学率について】

全体目標 6.6%→ 全体結果 9.7% 学園全体ビューティー分野 10.6%

1年生目標 10% → 1年生結果 13.8% 66 人 / 2年生目標 3%→ 1年生結果 3.9% 17 人

結果として目標に達することができなかった。

ここ2年間の退学率は2年連続退学率減であった。→2020 年度(8.2%)→2021年度は(7.0%)

コロナ以前の 2019 年全体退学率 11.5%だったところからは減少出来てはいる。

【考察】

・退学理由の第一位が「目標喪失」次いで「進路変更」「心神耗弱」

⇒目標喪失に至るまでに人間関係、授業のギャップなど様々なことが積み重なり、結果「目標喪失」となり退学に至る。

・2 年生の退学者が例年より多く見られた。

・ペア担任制、シングル担任制など教員や学科の特色を考え配置したがペア担任の相性なども影響があったのではないか。

【通信制高校の退学率】

●通信制・定時制高校出身生徒の割合は全体の 1.3 割程度であるが、全体退学者の約 3 割が通信制高校出身。その中でも約半数が飛鳥未来高校出身者の生徒がとなっているため、事前の通信制高校出身者の共有と担任・教科担当によるフォローアップを進めていく。

② 学校関係者評価委員会コメント

プレッシャーに弱い人材が多くみられる。「時間」のプレッシャーに耐えられない人が多い。

人間関係の構築(コミュニケーション UP)が求められる(関委員 トータルビューティー科)

近年スタッフの意識が変わってきた。利己的な感覚のスタッフが増えてきた。美容業界では利他的の感覚が

求められる。(高橋委員 美容科)

高校生の13人1人が通信制を選ぶ時代。なんとなく美容に興味を持ち、オープンキャンパスに参加し進路を決定する子も多い。したがってクラスの集団を経験せずに入学しているのが現実。やる気がないわけではなくリズムをつかめない生徒は多い。入学前に連携をとり専門学校を理解してもらえよう理解を促していきたい。(武田委員 全学科)

弊社のサロンへ有給インターンシップから入社を決めてくれた学生がいる。スムーズに仕事をこなしている。
(田沼委員 トータルビューティー科)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

- ・生徒指導など教員の感覚で判断、解釈など見られるので方法の統一が必要。
- ・学校の理念・目的・育成人材像の共通認識を教科会、全体会議で繰り返し共通認識を持つ。
- ・社会に出た時に必要な、技術だけではなく、お客様とのコミュニケーション能力につながる【心】の成長の重要性を在学期間の中でいかに気づかせていけるか。

② 今後の改善方策

学校の理念・目的・育成人材像など教科会、全体会議などで共通認識の場を繰り返し設ける。

各業界のリサーチからニーズに合わせて再検討

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

エステコースの生徒は技術が自信につながっている様子を感じる。基本的知識（挨拶、時間管理）当たり前が当たり前に出来ているように感じる。一般的にはあまり当たり前にできている人が少ないので学校教育が現場に活きている。（田沼委員 トータルビューティー科）

コミュニケーション能力が問題。仕事に対してのフィードバックを受けるのが苦手な社会人が多い。悲観的に物事をとらえてしまう。（関委員 トータルビューティー科）

今年の卒業生の勤務状況を見て自分で考えて行動できている様子をうかがえた。中には受け身な人が多いので、相手の目線に立ち考える力を養える取り組みをサロンも強化していきたい。（高橋委員 美容科）

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

業務に対して主体性や、やりがいをもって取り組める人材の育成。

各教育活動の目的目標を明確にし、取り組みや活動については積極的に公開し、常に振り返り改善に努める。

② 今後の改善方策

実習授業実践ガイドブックをもとに実技授業のノームの徹底。

全国姉妹校との連携し結果の好事例の共有しながら、教員同士のコミュニケーションの意識を高め、生徒に対して質を落とさない授業を行う。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

チームワークを大事にしている。頑張りに対する報いをうまく出せていなかったなので、改善中。給与ベースアップを実施。 社長参加のもと認識や解釈を統一していく理念会議を実施している。

（関委員 トータルビューティー科）

頑張りたい人、定時で帰りたい人、組織系統を分けている。プライマリー、スタンダード、会社としては両方大事にしたい。2～3年経過の社員に対象に進めていく方針。働き方の一つとして検討中。（高橋委員 美容科）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- ・同一科目を複数教員で実施する際の統一認識。
- ⇒授業の準備/ハラスメント行為の注意/ペア教員との連携
- ・実技授業など、コロナ禍の授業対応から通常の授業を推進していく動きに対応していく。
- ・デジタル教材（VR、デジタルテキスト、デジタル問題集）の教員間の指導方法の統一。
- ・今の生徒の気質を理解しそれに合った指導方法の検討。

② 今後の改善方策

- ・様々な新しい試みが円滑な授業展開につながるように教員が納得して実施できるような説明、コミュニケーションをとる
- ・全体会議等で全体の意識統一を図る。
- ・美容科新コース『ヘアカラーリストコース』の運営準備。

③ 特記事項

月1回程度の教科ごとの会議を開催し、リアルタイムな生徒情報の共有と指導の統一、教員同士のコミュニ

ケーションの機会を増やし業務改善に取り組んでいる。

④ 学校関係者評価委員会コメント

現高校2年生からデジタルレポートを導入。生徒より教員のレベルアップが必要。美容に興味がある生徒は多い。(武田委員 全学科)

VR については、まだ正確なデータは出ていないものの、現場では技術力向上につながっている。声が上がっている。ネイルについても今後導入を検討作成。広島校へ優先的に導入し結果を見ていく様子。(松川 副校長)

VR について、使用する事で自信がつくように感じた。ヘアカラーリストコースの取り組みを楽しみにしている。サロンによってはカラーのみで仕事をやっているスタッフもいる。スタッフのやりたい気持ちを現実にしてきたい。(高橋委員 美容科)

VR の効果を姉妹校より聞いた。採用活動の中で、仮想空間の中で体験をできる取り組みをしてみたい。(関委員 トータルビューティー科)

現代の人たちは説明書の文書を読むのではなく、動画で知る時代。読解力が乏しい生徒が多いので VR は良い取り組みだと思う。(田沼委員 トータルビューティー科)

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・「目標喪失」をさせることなく、生徒にとって成長実感や楽しさをいかに感じられる授業を行えるか。
- ・生徒の変化に気付けるアンテナを教員が持ち続けられるか。担任と教科担当と連携強化。
- ・多様化する生徒への個別対応方法

② 今後の改善方策

- ・社歴関係なく、全教員が連携・協力して生徒と関わる。生徒とのコミュニケーション意識。
- ・スクールカウンセラーの活用。
- ・前期にしっかりと学校が楽しいと思えるクラスづくりや目標設定をすることの大切さを伝えることで後期の退学防止に繋げていく。
- ・就職においては早期に就職活動の意識づけ、積極的に企業説明会を実施

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

現場でも、離職率は課題としている。従業員も一定のラインから増加できていない。スタッフのカウンセリングは多く時間を割くようにしている。新しい試みとして、手荒れに対する知識を身に付ける取り組みをしている。（高橋委員 美容科）

採用と退職が課題。販売職は安定しているが、美容師の採用は苦戦。独立したい人はあまり向かない。学生のキャリアビジョンとマッチングする必要。今後はFC 可も検討。時短ができる環境があるかどうか。通常雇用と時短雇用の差も課題。企業側が考え方を変わらないといけない時代。月報時に気持ちの変化を確認するような制度や、相談窓口など設けている。業務成績をプレッシャーに感じて退職してしまうケースも多い。言い方や指示の出し方なども気を付けている。（関委員 トータルビューティー科）

学校生活がうまくいっている生徒は友達との時間が楽しい人が多い。一緒の仲間、人間関係構築をサポートする取り組み。友達がいないと思われるのも、やる気の喪失につながる様子。（武田委員 全学科）

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・『経済的理由』による退学者が年々増加傾向にある。
- ・奨学金の制度を利用し入学はできたが、生徒自身の学ぶ意欲が低い。または持続できない。
- ・卒業生への支援体制強化

② 今後の改善方策

- ・入学時や入学前などの学費説明と学費支援制度説明の強化
- ・卒業生 LINE の積極的活用について卒業生に向けた告知などを行う。
- ・卒業生の活躍など広報や在校生にも周知させていく。

③特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

高校がでは年に1度3月に同窓会を開催している(昨年は40名くらい参加)(武田委員 全学科)

卒業生の交流会の場があると様々な意見交換ができるのではないか。(田沼委員 トータルビューティー科)

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

有休インターンシップ先の現場施設実習確保。※特にネイル、メイク分野

インターンシップの企業様の認知度を高め、求人獲得につなげる

美容科の実習内容は現場に任せてしまっている部分がある為、生徒の経験値にバラつきが見られる。

※企業側と連携を取り、具体的に実習内容の依頼をしていく。

だが美容科の現場実習は無給であるため、サロン側への依頼が難しい現状もある。

② 今後の改善方策

施設実習でお付き合いのある企業様に関しては、インターンシップの内容と施設実習とで混乱してしまうこともあるため、事前の説明(ねらいと目標)をしっかりとご理解いただく必要性。

・今回メイク業界で企業様の求めるレベルと生徒のレベルの差異があり、途中辞退が発生したため、1年生の段階で就職インターンのレベルまでなかなか至らない点を事前にしっかりとご理解いただく事も必要。

また、生徒へもお給料を頂く事の責任と自覚を持たせる導入を行う。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

有給インターンシップ受け入れ状況として、去年は2名のうち、1名はそのまま採用。イメージと違うなどのマッチングミスが無く、スムーズに勤務できている。アルバイト期間で判断できることは、お互いにとってメリットがある。（田沼委員 トータルビューティー科）

ネイルでの受け入れが難しい。ネイリストの需要が増えている。業務として携わるケースが少ない。お客様に対しての指導が難しい。相談次第では可能な場合がある。（高橋委員 美容科）

インターンシップ受け入れ体制を整えたい。現状短期であれば可能性はある。（関委員 トータルビューティー科）

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	3

① 課題

- ・本校の強みや特色を入学希望者や保護者へ打ち出す。
- ・広報活動の戦略やオープンキャンパスの運営の再確認。

② 今後の改善方策

高校生から納得して入学を決めてもらえる運営や教員と生徒の一体感の醸成と強化をしていきながら、美容のすばらしさ、魅力をオープンキャンパスで伝え続ける。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

姉妹校進学だけではなく、他校にも流れている。派手な世界観に圧倒されている様子は見られる。見た目は派手でも気持ちが優しい生徒が多い。学校によっては、学校生活についてメッセージが届く場合がある。（武田委員 全学科）

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018 年度～2022 年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

法令遵守の徹底

② 今後の改善方策

- ・会議や掲示物等を通じて、すべての職員の法令遵守に対する啓蒙を図る。
- ・個人情報保護法など、毎年継続し繰り返し法令の正しい知識を教職員に伝えていく。
- ・教員としての自覚をしっかりと持って教壇に立つてもらえるよう定期的にハラスメント、コンプライアンスに関する研修開催。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2

① 課題

ボランティア活動や地域貢献イベントを確保し、積極的に生徒に成長や活躍の機会を与える。

② 今後の改善方策

成人式メイクや中学生を対象にした職業体験イベントなど、感染対策を行いながら積極的に地域貢献につながるボランティア活動を実施。この環境下の中でも地域に貢献できることを全力で行い、地域にとって価値のある学校になるよう努める。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

【総評】

業界をどう盛り上げていけるかは重要。美容の楽しさを伝えていけるような連携をとっていきたい。

（高橋委員 美容科）

学校の現状、産学連携の取組みを知れて勉強になる。価値観が多様化している中で企業は努力しないといけない。純粋な想いを大事にしていきたい。（関委員 トータルビューティー科）

進路指導をする上で、その先に、企業様があり、お客様があることを再認識できた。（武田委員 全学科）

企業の規模に変わらず、課題は一緒だと感じる事ができた。運営の参考にしていきたい。

（田沼委員 トータルビューティー科）